

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		多機能型事業所シンフォニー(放課後等デイサービス)				公表日	令和8年3月10日
		チェック項目			工夫している点	課題や改善すべき点	
			はい	いいえ			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		利用者様を受け入れる時に他利用者様との距離感に留意している。	10名でスペースが狭く感じる。臥床の方が増えると狭くなるので改善が必要。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		職員体制を調整しながら行なっている。	配置は満たしているが利用者様の特性により職員体制の見直しが必要な日がある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		子どもが安心して過ごせるよう、分かりやすい環境づくりを心がけている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		利用児一人ひとりの状況を把握し、支援内容に反映するよう努めている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		支援内容について職員間で共有し、統一した支援が行えるよう心がけている。	個室を使用する際、見守りや職員配置が追いつかず、安全確認が不足しやすい場面がある。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		支援中の気づきやヒヤリハット、保護者意見等を材料として課題抽出している。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		評価表の内容を踏まえ、支援内容・送迎・連絡方法等について具体的に改善につなげている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		振り返りなどで意見を出してもらっている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		業所内の視点だけでは気づきにくい課題を、第三者の視点で確認・指摘してもらっている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>				
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		支援上の課題やヒヤリハットは、共有できる形で記録・共有し改善につなげている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		放課後等デイサービス計画の作成・見直しにあたり、児童発達支援管理責任者だけでなく、支援に関わる職員(指導員・看護師・機能訓練士等)から日々の支援記録や観察内容を収集し、多職種の視点で検討している。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		支援中の気づきや変化は適宜共有し、必要に応じて計画内容の見直しや支援方法の調整につなげている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		こどもの状態は一時的な様子だけで判断しないよう、複数職員で観察し、支援記録・申し送り等を通じて職員間で共通理解を図っている。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>		家族支援については、家庭での困りごとや保護者の意向を丁寧に確認し、助言や相談対応、連絡方法の工夫等、家庭と連携した支援につなげる内容を盛り込んでいる。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>		活動プログラムの立案については、担当者だけで決定するのではなく、支援に関わる職員がチームで検討し、共通理解の下で立案している。		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		活動プログラムが固定化しないよう、活動ごとに指導案を作成・活用し、ねらい・支援方法・配慮事項・評価視点を明確にしたうえで実施している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		振り返り内容は支援記録や申し送りに反映し、職員間で共通理解を図りながら継続支援できるようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の支援について、こどもの様子や支援内容、対応の結果等を支援記録として残すことを徹底している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		事業所での支援状況と照らし合わせながら、より適切な支援方針となるよう計画を調整している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		本人の成功体験につながるよう、環境設定や関わり方を調整しながら実施している。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を育てるための支援を行っているか。	○		日々の支援記録や振り返りで、自己選択の機会や反応を共有し、支援方法の改善につなげている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		支援状況を把握している職員（児童発達支援管理責任者、担当職員等）が参画している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		医療的ケアや健康面の配慮が必要な場合は、主治医の指示や医療機関との連携を踏まえ、安全に支援が行えるよう職員間の共有を行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校と年間計画・行事予定等を共有し、送迎や活動計画に反映できるよう情報交換を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		あいあいセンターや療育センター等へ見学に行き、支援の様子や関わり方を確認したうえで情報交換を行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		必要に応じて会議や引き継ぎの機会に参加し、移行後も本人が安心して生活できるよう、関係機関との連携を図っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		外部の専門職から、支援内容や支援計画等について助言を受ける体制を整え、事例検討等を通して支援の質の向上につなげている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			医療的ケア児や発作対応を要することもへの理解・対応体制に差があることから、安全面の観点で交流機会の確保が難しい場合がある。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			参加目的や役割が明確化されておらず、参加しても業務改善につながりにくい場合がある。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		医療的ケアやてんかん等の配慮が必要なこどもについても、体調変化や対応方法を保護者と共有し、安心して利用できるよう継続的に連絡を取り合っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			家族支援に関する情報提供が、個別対応や必要時対応に偏りやすく、継続的・計画的な情報提供の仕組みが弱い。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		説明後も、保護者からの質問や相談に随時対応し、不安が残らないよう行うようにしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		保護者面談、家庭での困りごとや希望、支援に対する要望を丁寧に聴取し個別計画書へ反映をしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		計画を提示し説明したうえで、保護者の同意を得ている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者からの相談に対し面談を行い、必要な助言と支援を実施している。内容に応じて相談支援事業所等の関係機関とも連携し、継続的な支援につなげている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		父母の会の活動支援や保護者会の開催について、実施したい意向はあるものの、業務運営や日程調整の難しさから、定期的な開催・継続的な取組が十分にできていない。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			苦情が大きくなる前に対応できるよう、日頃から保護者とのコミュニケーションを丁寧に行い、相談しやすい雰囲気づくりに努めている。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○			ホームページやSNS等を活用し、活動内容や行事の案内、日頃の取組を情報発信することで、事業所の支援内容が伝わるよう工夫している。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			個人情報の取扱いについて職員へ周知し、守秘義務の徹底を図っている。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			医療的ケアやてんかん等の配慮が必要な場合は、体調変化や対応方法についても保護者と情報共有を行い、安心・安全な支援につなげている。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		医療的ケアやてんかん等の配慮が必要な子どもも在籍しており、見慣れない人の出入りや環境変化が刺激となる可能性があるため、安全面・体調面への配慮が必要で実施が難しい場合がある。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			保護者へはマニュアル全文の配布ではなく、緊急時連絡体制等の必要事項を抜粋し、書面や掲示等で分かりやすく周知している。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			安全計画を整備し、ヒヤリハット等を共有しながら安全管理の改善に努めている。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			安全確保に必要な事項（緊急時連絡体制等）を施設内に掲示し、保護者へ周知している。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			ヒヤリハットを事業所内で共有し、原因を整理したうえで再発防止策を検討している。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			虐待防止研修の機会を確保し、職員へ周知徹底を図っている。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			やむを得ず身体拘束を行う場合は、組織的に判断し、事前に保護者へ説明・同意を得たうえで、計画に記載している。	